

茨戸（湖）川周辺（札幌市北区）

泉 勝 統

茨戸川（旧石狩川）の河川敷に僅かにへばりつく叢林。その林床にまだ残雪も残る頃、ひっそりと潜んでいたカシラダカ。それも北へ帰り4月ともなると川畔の狭い草地にオオジュリンがやって来て、あっという間に夏羽に衣がえ。ノビタキは枯れススキにすがりついている。空高くヒバリも囀り、すっかり春めいてくる。私は87年より、ここの堤防を健康保持のため探鳥散策することを日課のようにしている。

茨戸園附近はカラ類・ケラ類の姿が見られ、茨戸川沿に入ると河川敷の叢林や草地に、季節により色々な鳥達が渡って来て、個体数は少ないが結構楽しませてくれる。初夏が近づくと、カワラヒワ、アオジ、キジ、ベニマシコ、オオ・コヨシキリが、やや遅れてホオアカの共同採餌も見られる。今年はおオジシギのつがいが恋仇を追って樹間に営巣した。カッコウやコムドリは繁殖前、特に^{かしま}姦ましい。水辺を見るとマガモ、コガモ、カルガモ位しか残っていないが、エクリプスからの換羽が見られ、これもまた楽しみみの1つだ。3~4月にはヨシガモ、ハシビロガモ、オカヨシガモのつがいが次々とやって来て1~4週ほど居座っていった。4月下旬の頃、上流からアカエリカイツブリ（3）が夏羽姿でくだった来てたのには驚いた。



茨戸（湖）川周辺地図（斜線部が探鳥地）

ここの草地は、僅かな堤防斜面のみだから抱卵期の野鳥の巣近くは勿論、鳥の「逃走距離」まで近づかぬよう、できるだけ遠い低地から行動観察することになっている。春秋の渡りの季節は、めまぐるしい程鳥が出入りする。草原の鳥に森の鳥も混じり、エゾセン、ウグイス、ホオジロ、メボソ・セソダイムシクイ、カケス、シロハラ、ツグミなどなど……。勿論「俗化指標鳥」などと有難くない呼び方をされているムクドリ、ヒヨドリがキジバト、ハクセキレイなどと共に、川畔をにぎやかにしてくれる。今夏はカワセミも迷いこんできた。

初秋から春にかけて、草苅場にニューナイスズメの大群。ヒレンジャクの混じったキレンジャク、マヒワ、ベニヒワの群など……茨戸周辺もまんざらではないと再確認した。ここは水鳥が渡りの休憩地でもあるのか、マガモ、コガモの大群の中に、キンクロハジロ、ミコアイサ、カワアイサ、ヒドリガモ、オナガガモも、ホシハジロ、カイツブリ、ミミカイツブリなどもやってくる。

秋は、チカを追ってかユリカモメやアジサシも飛来するし、新春にはワカサギを追ってウミアイサ、ホオジロガモも相当上流まで遡上する。昨年はオオホシハジロが越冬し4ヶ月間観察できた。トモエガモ（♂）の姿も見たし、ウミウものぼってくる。アオサギ、オオコハクチョウも飛来する。

87年9月から5ヶ年計画で、茨戸園入口から生振側を北方向に「定点観察法もどき」にH1～H8を設定、夏季でも週2～3回は観察チェックしている。

だが昨今、北岸の築堤架橋工事、南岸も放水路改修などで水鳥が岸に近づかず、いささか気落しているといったところだ。

猛禽類も鳥を追ってやってくる。オオタカ、ノスリ、チュウヒの他、冬はオジロワシ、オオワシがカモ類を狙ってジーツと待ちつづける姿をしばしば見る。

紙数に限りがあるので、茨戸湖（教育大前～石狩川畔）で観察した主たるものをあげておく。……イソシギ、ハマシギ、コチドリ。今年は偶然、タヒバリ、トウネン、ダイゼン、エリマキシギ、そしてコオノトリを……。クロテン、ミンク、キタキツネも姿を見せてくれる。

探鳥散歩は楽しい。歩くことは一向苦にならない。それは小鳥達が散歩を楽しいものにさせてくれるからだ。